

記録とコミュニケーションのデジタル化で ご利用者の暮らしを切れ目なく支える事業

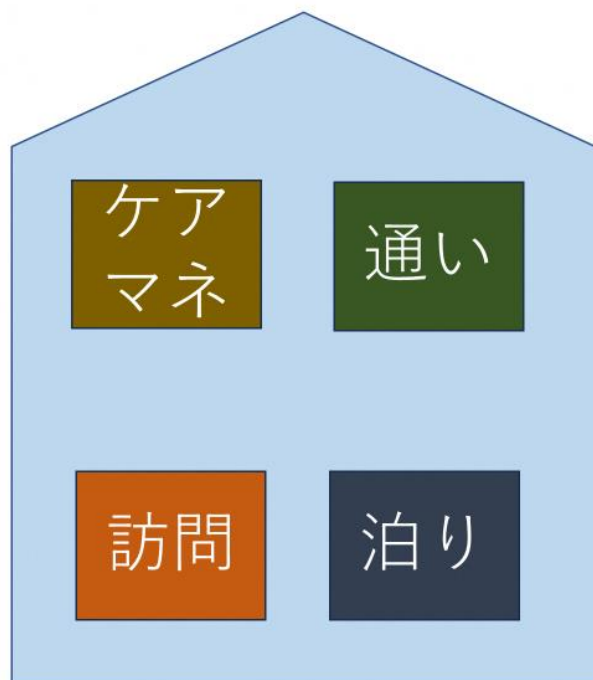
(看護) 小規模多機能型居宅介護で暮らしを支える会 代表 青木 智子

(看護) 小規模多機能居宅介護事業所とは

小規模多機能型
居宅介護事業所

居宅介護事業

ひとつの事業所で暮らしを支えるためのサービスを提供



ケア
マネ

通い

複数の事業所で暮らしを支えるためのサービスを提供

訪問

泊り

全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会や日本看護協会のホームページでパンフレットがダウンロードできます。ぜひご覧ください

1. 事業内容

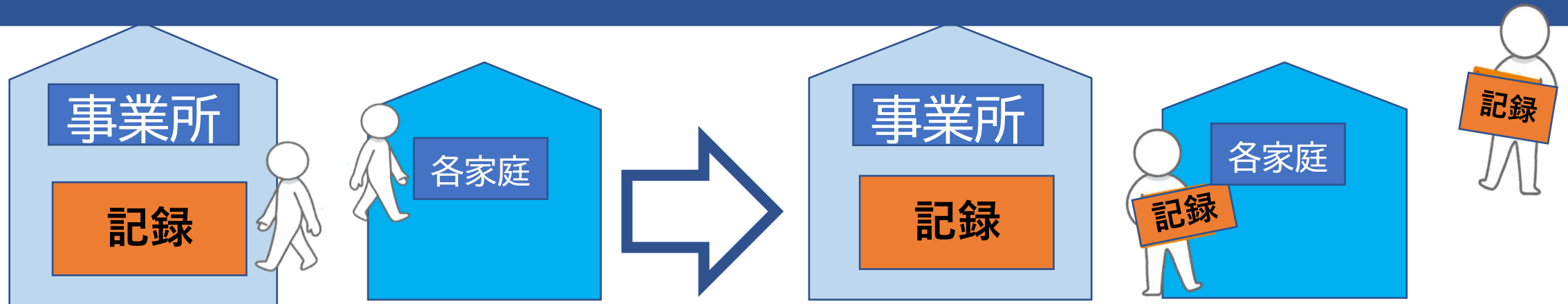
ご利用者の生活力を維持し暮らしを切れ目なく支え最後まで安心して家で迎えられる地域にするために

事業所内の紙の記録や関係者とのコミュニケーションをデジタル化する

2. 取り組み内容

介護事業所の記録をiPadとアプリ（ケアエールPRO）を使いデジタル化する

- 事業所内でしか見られなかった情報を色々なところで見ることができるようにする
- 訪問先で記録できることでリアルタイムに情報を共有する
- 画像によるコミュニケーション手法により情報伝達を充実させる



3. 成果（iPadとアプリ使った意見）

共有する情報の質と量が増えた

訪問先でリアルタイムに入力ができる

知りたい情報がすぐに確認できる

休日明けの情報収集がすぐできる

ビデオ通話ができることで実際の場面を見ながら相談できる

写真や動画でよりリアルに情報を伝達

それぞれが入力する事でケアの視点が広がった

家族と情報を共有できる

チーム感が増した

ケアマネや管理者等決められた人だけが家族とつながっていたが家族と普段のやり取りが増えた

家族のリアクションが嬉しい、モチベーションが向上

0:05 4G+

ます。(小林)



どのくらい食べる事が出来たかを引き継ぐのにも
写真を使えば一目瞭然

ケアエールPRO
pro.careyell.com

11:55 4G+
ケアエールPRO
pro.careyell.com



小規模多機能型居宅介護 オレンジ
2時間前

7月24日(水)のサービス記録を更新し

1日の様子

9:25 【訪問送迎】

ベッドで起きて横になっていらっしやし
去開鍵施錠し出発しました。(大堀)



1件



0件



スタンプする

コメントする



小規模多機能型居宅介護 オレンジ
18時間前

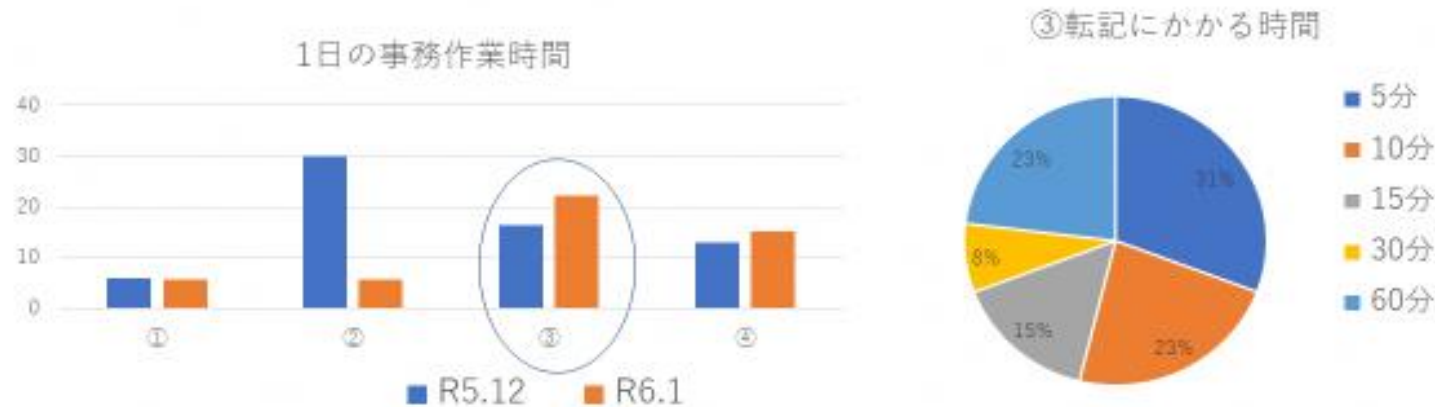
4. K P I

①事務処理にかかる時間が減少



1日当たり6～7時間⇒5時間に減

- ①記録をするためにカルテを探すのに要する時間
- ②他の人が使用しているために自分が使用できずに使用できるまでに要する時間
- ③メモからカルテへの記入カルテからメモに転記するのに要する時間
- ④必要な情報をカルテから探すために必要な時間



○投稿すると家族もすぐ見ることが出来るため内容の確認が必要

○入力の内容などは各事業所によって異なるため各事業所で自施設の課題分析をしてどのように活用していくのか今後も継続して検討が必要

②利用者や家族の安心感が向上



○家族が参加している事業所は1事業所のみ

○小規模多機能型居宅介護オレンジで「在宅認知症家族のソーシャルサポート尺度」のアンケート調査を実施

＊2023年12月に17名実施 回収率70% 平均13.7点

＊2024年5月に23名実施 回収率86.9% 平均17.1点

(20点満点 点数が高いほど満たされている)

「離れていても安心できるようになった」「心配しすぎなくなった」等

5. 今後

○暮らしを支えるにはご利用者自身の声を聴くことがまず重要である。そこにしっかりと時間をかける事が出来るよう事務的な作業はより効率をあげていく。

○各事業所がお互いのノウハウなどを共有し地域としてケアの向上を目指せるよう情報交換などを行いながら進めていく

○自施設だけではなく家族や地域、関係者と共有していくことでご利用者自身の暮らしや思いを繋いでいく。



ご清聴ありがとうございました